

- **在籍年数** 集団に小4から9年間。大学生講座に参加。
- **進学先** 慶應義塾大学法学部政治学科

学ぶとはどういうことか、自分の人生を創るとはどういうことか。

私はこういった問いに自分らしく体当たりしつづけていった結果として、足跡が残り道標が見える生き方をしたいです。

そのための案内所のような、立ち止まりたい時に外から私を見てくれるような、そんな「場」が私にとってのぼん太です。

ぼん太に通っている人達って何でこんなに個性的なんだろう？と話すことがあります。それは、誰しもにある「個性」が、この教室という「場」で、1番に濃く発揮されるからだと思います。いつもの友達と騒ぐのも楽しいけど、月に2回この教室でなら、剥き出しの私らしさを真面目に語ることができる。ぼん太はみんながそう思える居場所を一から作り上げ、一人一人の個性を存分に引き出してきてくれました。

ぼん太の仲間たちは、学校の同級生のような”日常”の一部とは少し違います。私達は、学校や課外活動などの自分の”日常”を報告するため、又は現実から外れた未来や過去のことを話すための、”非日常”の関係なのだと思います。

それぞれが独立した世界を持っていて、そんな雑多な人間達が同じ場所に、ただただ「居る」。全然違うことを追いかけているのに、仲間から常に刺激をうける。そこが、私の小林国語教室の好きなところ です。

もちろん、そんな仲間との媒介となるのは「言葉」です。

出会ったことのない本を読み重ねていき、語らい、ものを知っていく。これは学校ではやらないけれど、本当に大事なことだと思います。

「初めて考える時のように」「人間を磨く」「大学」「中庸」「シンニホン」「孫子」...などなど読んできた沢山の本は、具体的なことは覚えてなくても(笑)、抽象的な言葉となって私の中に積み重なっています。

人間は、一人で歩くことさえも「学ぶ」生き物だと言います。通い始めた時は小学生だった私も、これから学問を進めていける程度の大学生になりました。

まだまっさらな子どもがいたら、一度教室に来て欲しいです。きっと、ぼん太と国語が力を添えてくれます。すっかり大きくなった頃には自分の世界の解像度が上がって、何かしらの道が見えてくるはず です。